

「浦島虎徹」の姿ここにあり

刀剣女子が熱視線

多数の刀剣や甲冑を所蔵する鳥取市覚寺の渡辺美術館が、「幻の刀剣」とされる脇差し「浦島虎徹」の刃文を写し取った押形(複製)の展示を始めたところ、若い女性の来館が目立つようになってきた。人気ゲームをきっかけに、日本刀に興味を持つ「刀剣女子」と呼ばれる女性が全国的に増えている。同館は「従来中高年の男性客が多かったが、ファン層が広がっている」と思われ効果を感じている。(本社・中村宏)

ゲーム人気で？来館者急増

浦島虎徹は江戸時代初期の刀工、長曾弥興里の作とされ、長さは1尺1寸2分(33・9センチ)。竹を担いだ浦島太郎の図が刀身に彫られているほか、反りが浅いなど特徴がある。鳥取池田家に伝わったとされるが、現在の所在は明らかではない。



「浦島虎徹」の押形を見入る女性客。展示後、若い女性の来館や問い合わせが増えている＝鳥取市覚寺の渡辺美術館

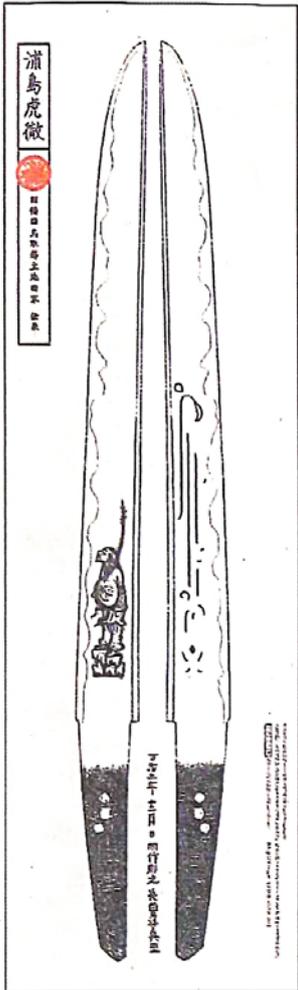
鳥取・渡辺美術館

この現象について同館の森脇尚事務局長は「(1978年の)開館以来、初めてのこと。オンラインゲーム『刀剣乱舞』の影響ではないか」とみる。

同ゲームは刀剣を擬人化した男性キャラクターを収集・育成し、戦わせる内容。国宝の「三日月宗近」や「庄切長谷部」などに交じって浦島虎徹も登場しており、天真らんまんなイケメンキャラ」として描かれている。

3月初旬には、千葉県に住む女性が来館。ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)で連絡を取り合った東京や京都などに住む4人の刀剣女子とつづつ浦島虎徹の展示に対する感謝のメッセージを届けた。

同館では、地元のデザイン会社と連携して作ったカレンダーなど、浦島虎徹の関連グッズも限定販売。森脇事務局長は「来館者の増加につながるのはいずれしい。鳥取県内の刀工が手掛けたものなど85振りの刀剣を展示しており、それらも鑑賞してほしい」と、刀剣ブームの盛り上がり期待を寄せる。



浦島虎徹
鳥取市覚寺の渡辺美術館蔵

浦島虎徹の押形(複製)。左側の刀身に浦島太郎の姿が彫られている＝刀剣博物館(日本美術刀剣保存協会)提供